これ以上原発を動かしても
核のごみの捨て場所はない

■核ごみマップを発表
しかし１０万年後のことは誰にもわからない

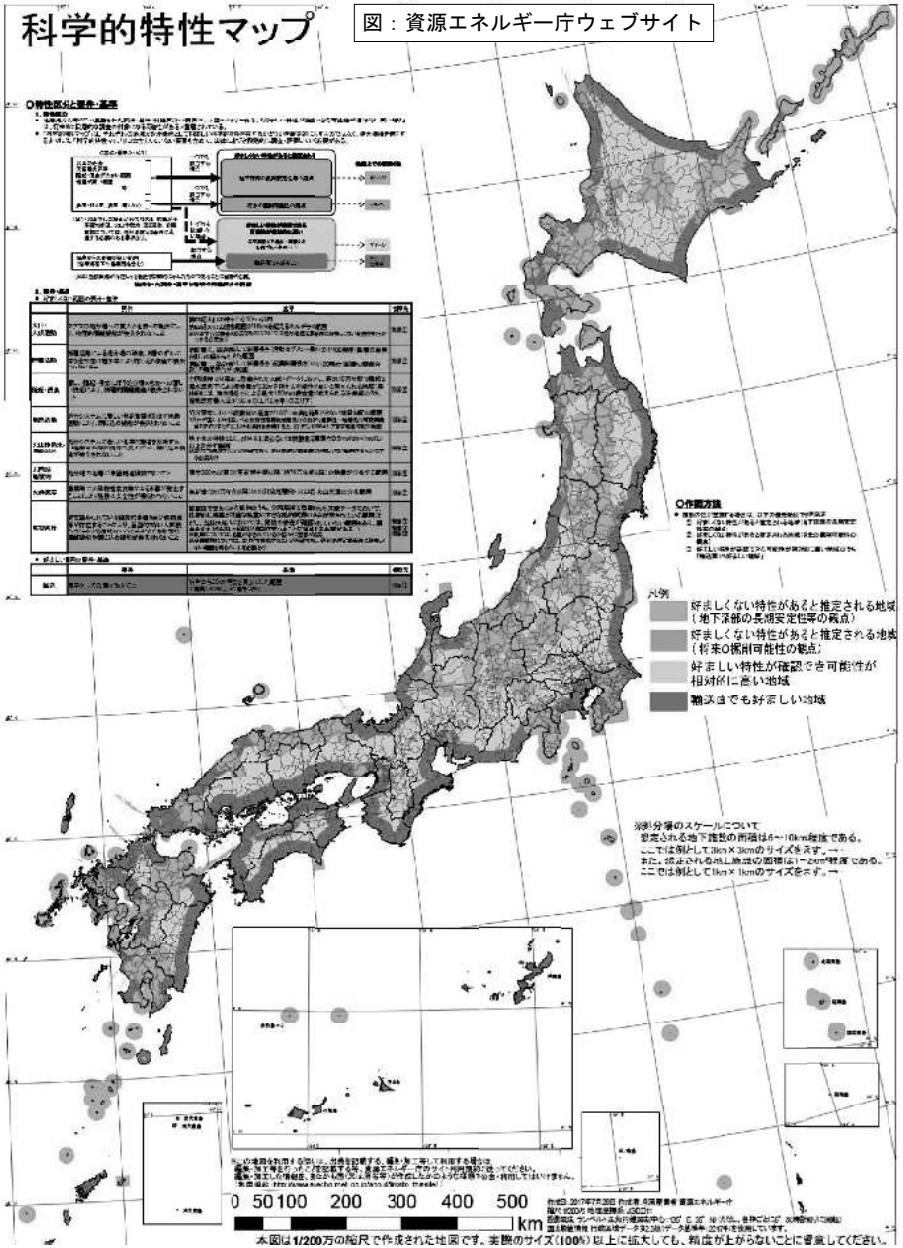
現在、日本で抱える使用済み燃料は２万トン近くあります。その燃料から出る高レベル放射性廃棄物をガラス固化体にして、地下３００メートルより深い地層に運び込み、坑道を埋めてふさぐというのが政府の考えている処理方法です。期間は数万年から１０万年…。途方もない長い長い時間です。

日本列島が地球上に出現したのは１万５０００年前。日本列島に人が住み始めたのが１万年前。その１０倍もの年数を見届けられる人はいません。 ４つのプレートがせめぎ合って日本の火山は形成されました。日本には千島列島から東日本を縦断して伊豆七島から西之島新島の先までの火山前線があり、日本列島は火山前線と重なっているのです。１０万年後、日本列島は果たしてあるのでしょうか？

それなのに政府は７月２８日、地質学的条件から適否を推定して日本地図を塗り分けた「科学的特性マップ」を公表しました。適地とされたのは国土面積の約６５％、適地を持つ市区町村は全体の８割超の約１５００自治体です。

政府は自治体向けの説明会を実施後、数年かけ自治体の意向を探りながら複数の候補地を選び、（１）文献調査（２年程度）（２）概要調査（４年程度）（３）精密調査（１４年程度）ーーの３段階で建設場所を決めたいとしています。 調査に２０年、処分開始までは３０年かかると見込んでいます。その間も原発を稼働させていれば核廃棄物は増え続けます。

しかもこれらの処理費用は電気代に上乗せされるのです！
原発はあらゆる電気のなかで一番使用料が高く危険な電気です！
原発を廃炉に！

核ごみマップ

海岸から２０キロメートルの地域が
輸送面を考慮してほとんど適地に。
そういうのを科学的とは言わない。